

青森県立八戸北高等学校

「冬の観光宣言！

～青森県の観光の現状と八北からの提案～」



平成29年度高校生模擬議会 青森県立八戸北高等学校

平成30年2月8日(木)

冬の観光宣言！

～青森県の観光の現状と
八北からの提案～

1

「冬の観光宣言！～青森県の観光の現状と八北からの提案～」と題しまして、八戸北高校からのプレゼンテーションを始めさせていただきます。（1）

- ## 改善したいところ
- 冬の観光客数
 - シッター街
 - 若者の県外流出
 - 少子高齢化
 - 短命県
 - 漁業、農業の衰退

2

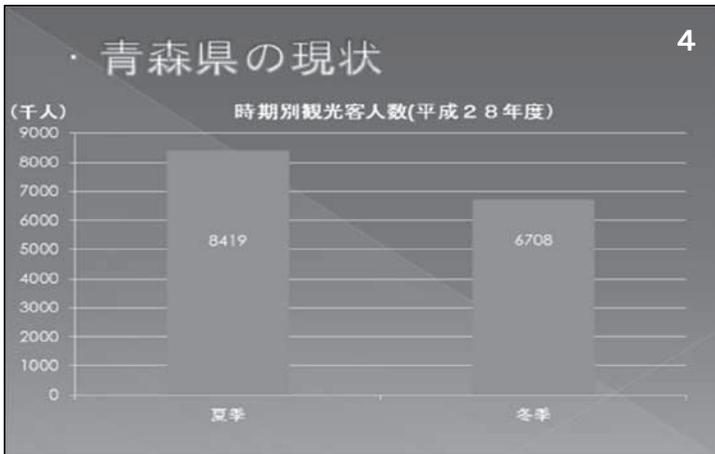
私たちは地元青森県を活性化させるにあたり、まずどんなところを改善したいのかを話し合いました。例としては、冬の観光客数が少ない、シッター街が多い、若者の県外流出、少子高齢化、短命県、漁業、農業の衰退などが挙がりました。この中で冬の観光客数をピックアップして発表していきます。（2）

提案理由

青森県の夏には、青森ねぶたや弘前ねぶた、八戸三社大祭など有名な祭りが多数ある影響か、観光客は年間1000万人を超えている。しかし、雪国であるにもかかわらず冬の観光客は夏に比べて少ない。その現状を解決したいと思ったから。

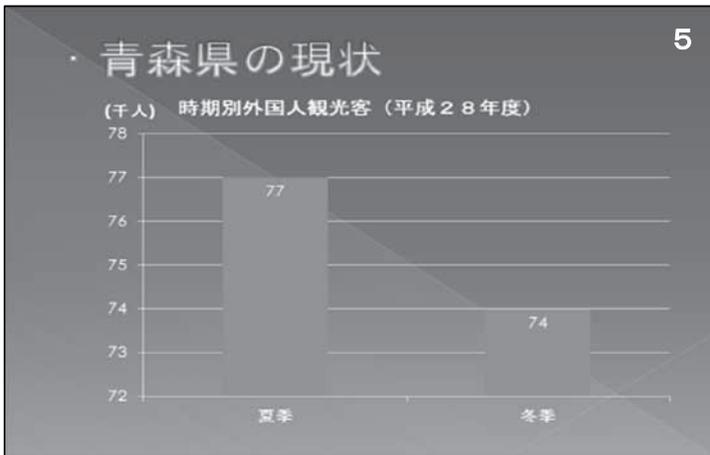
3

提案理由です。青森県の夏には青森ねぶたや弘前ねぶた、八戸三社大祭など有名なお祭りが多数ある影響か、観光客数は年間1千万人を超えていました。しかし、夏と冬で観光客数を比べてみると、冬の観光資源が豊富であるにも関わらず、冬の観光客数は夏の観光客数よりも少ないという傾向にあります。冬の青森県の魅力をもっと伝え、観光客数を増加させたいと思い、八戸北高校から改善策を提案します。（3）

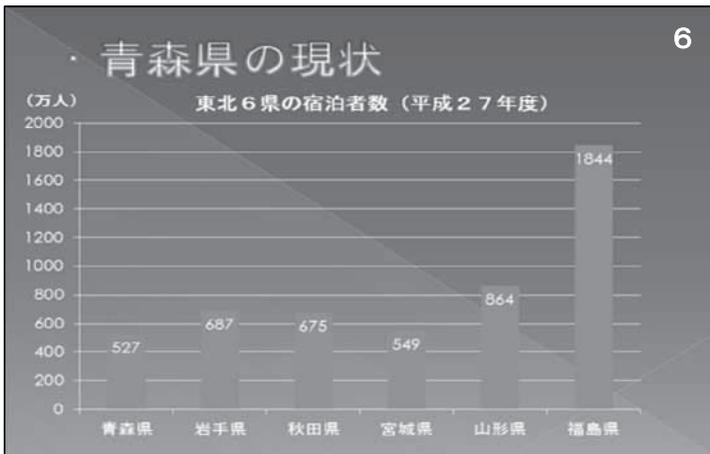


4

青森県の現状についてです。このグラフは夏季と冬季に分けてみた観光客数を示しています。夏季は841万9千人もの人々が訪れていますが、冬期は670万8千人と、夏季と比べて約170万人ほど減少しています。（4）



こちらは先ほどと同様、夏季と冬季とで比べた外国人観光客数を示したものです。近年、外国人観光客が増加しています。このことから、県内の外国人観光客を増加させることが全体の観光客数の増加につながると考えました。このグラフでも読み取れるように、やはり冬季の外国人観光客数も少ないようです。(5)



これは東北6県の宿泊者数のグラフです。左から順に青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県となっています。東北6県の中で青森県が最も宿泊者数が少ないというのが現状です。(6)

このような現状になっている最も大きな原因は、冬の観光地の知名度が低いことだと考えます。冬の観光客数が少ないことによって引き起こされる問題点は、次の3つです。

- ### 私たちが発見した問題点
- 7
- ・ 冬の観光客が少なく観光業の人の収入が安定しない。
 - ・ 宿泊客が少なくホテル業などの宿泊業の収入が少ない。
 - ・ 利用客や観光客が少なく雪が多いため冬季休業などの店が出てくる。

冬の観光客が少なく観光業の収入が安定しない。宿泊客が少なくホテル業などの宿泊業の収入が少ない。利用客や観光客が少ないことに加え、雪が多いため冬季休業などの店が多い。この問題が解消されると大きな収入を得ることができます。その根拠は次の資料によります。引用元は厚生労働省生活衛生局指導課のものです。こちらには表示されませんので、口頭で説明させていただきます。

北高からの提案

全三件

8

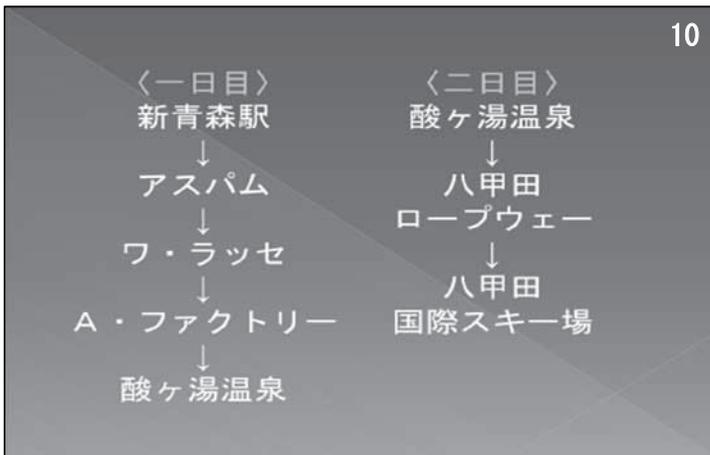
青森魅力 もりもり ツアー！！

東北6県のホテル、旅館を合わせた客室数は、1位福島県で38,822、2位宮城県で33,600、3位青森県で29,635、4位岩手県で21,764、5位山形県で20,734、6位秋田県で16,543となっており、先ほどの宿泊客数のグラフと比べると青森県は客室が多いにも関わらず、他県に比べ集客数は少ないということになります。このことから、観光客数が増えることで、特に宿泊業での収入を見込むことができます。(7)

そこで北高から「青森魅力もりもりツアー！！」を3つ提案します。(8)

9

青森ねぶたと樹氷のツアー (一泊二日)



- 11
- ## 青森ねぶたと樹氷のツアー
- ◎ アスパム・・・青森市の観光物産館
 - ◎ ワラッセ・・・ねぶたの魅力がたくさん
 - ◎ A・ファクトリー・・・おしゃれな物産館
 - ◎ 八甲田ロープウェイ・・・樹氷が立ち並ぶ
 - ◎ 酸ヶ湯温泉
 - ・・・世界一の積雪、千人風呂
 - 八甲田国際スキー場
 - ・・・冬のアクティビティーが楽しめる

まず、「青森ねぶたと樹氷のツアー」です。
(9)

はじめに新青森駅から出発します。そこから観光物産館アスパムに向かいます。ここでは青森の郷土料理やお土産が豊富にあり、けの汁やじゃっば汁といったものが代表的です。りんごジャムなどのりんご製品なども人気です。

続いてはワ・ラッセです。オランダの有名な建築家がデザインした現代的な外観のワ・ラッセは、ねぶた祭りの歴史や魅力を余すことなく紹介し、ねぶたの全てを知ることができます。さらに現在では、約50年前の伝統的な製法で作られたねぶたも展示されています。ねぶたは世界にも例のない珍しいお祭りなので、日本国内だけでなく海外からの観光客が多数訪れる祭りです。

そこからA・ファクトリーに移動します。A・ファクトリーでは青森県産食材を使った青森でしか味わえない食が集合しており、ここでもりんごの製品が人気です。この施設は工房と市場を兼ね備え、シードル等の醸造工程をガラス越しに見ることができます。シードルは飲みやすいことから、若い女性を中心に人気が高まっており、特に青森のシードルは世界15カ国の500品目が出店するシードルの世界大会にて2年連続金賞を受賞しております。また、県産食材を使った料理やスイーツなども堪能できます。

続いては酸ヶ湯温泉です。青森県を代表する名湯の1つ、酸ヶ湯。江戸時代から続く湯治場として国民保養温泉地第1号に指定されています。風情ある建物に硫黄の香りが漂い、郷愁をそそります。160畳の広さを誇る、現在では珍しい混浴の千人風呂は、総ヒバ造りで泉源の異なる2つの浴槽と源泉のかけ湯を楽しむことができます。積雪556cmを記録した世界有数の豪雪地帯としても知られています。この日は酸ヶ湯温泉に1泊します。

2日目はいよいよ雪山に向かいます。まず八甲田山のロープウェイで樹氷を上から楽しみます。豪雪地帯、かつ気温が低くなる青森ならではの景色を堪能してもらいます。その後、八甲田国際スキー場でウィンタースポーツを思う存分楽しんでいただきます。雄大に展開する樹氷はもちろんのこと、遠く津軽、下北両半島や北海道を望みながらの滑走は八甲田ならではのものです。このツアーはウィンタースポーツを楽しみたい方、必見です。これで1つ目のツアーは終了です。(10)(11)

12

まったりのんびり 呑兵衛ツアー (二泊三日)

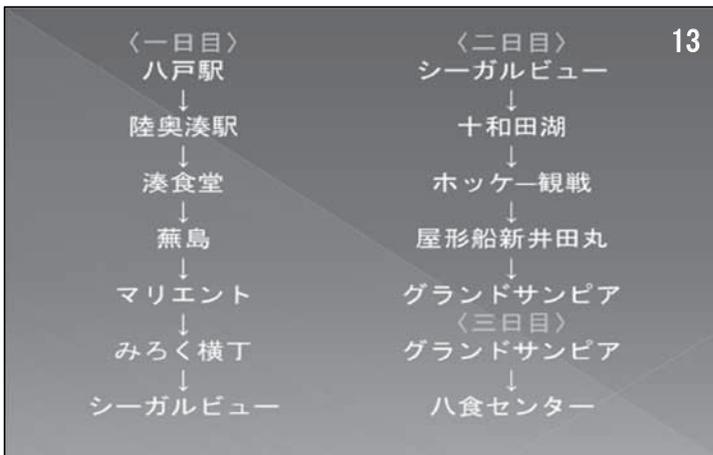
続いて2つ目のツアーの紹介です。2つ目は、「まったりのんびり呑兵衛ツアー」です。(12)

11時頃に八戸駅を出発します。陸奥湊駅まで電車で向かい、陸奥湊駅のすぐ近くにある湊食堂で昼食をとります。湊食堂及び陸奥湊駅の近くには大きな市場街があり、湊食堂は常時新鮮な魚介類を使った海鮮丼、ヒラメ丼、ウニ丼などが楽しめます。テレビでも紹介されており、全国で人気のあるお店です。

次に蕪島へ向かいます。蕪島神社は、約3年前に焼失しておりますが、多くの人の協力で再建に向かっています。蕪島は天然記念物ウミネコの一大繁殖地であり、夏には多くのウミネコが飛来します。また蕪島にはインフォメーションセンターがあり、蕪島やウミネコ、南部弁の歴史を学ぶことや凧揚げをすることができます。

次はマリエントに徒歩で向かいます。マリエントは水産関係の科学館です。ピラルクやクリオネなどの珍しい魚やヒトデやカニなどのお触りコーナーもあります。大水槽での餌付けショーも見どころです。

夜はみろく横丁で夕食を食べます。みろく横丁は八戸市の中心街の中にある小さな店の集まったところ。そこでは陸奥八仙、男山といった地酒やせんべい汁、八戸ら一めんといった地元ならではの一品を味わうことができます。店は狭いですが、店員さ



- ## 14
- ### まったりのんびり呑兵衛ツアー
- ◎ 湊食堂・・・おいしい海の幸、海鮮丼
 - ◎ 蕪島・・・天然記念物ウミネコの繁殖地
 - ◎ マリエント・・・水産がテーマの科学館
 - ◎ みろく横丁・・・地元料理、いい雰囲気
 - ◎ 八戸工業地帯・・・屋形船からの夜景
- 八食センター
・・・八戸の全てがそろう八戸の台所

んと距離も近く、暖かい雰囲気が魅力の飲み屋街です。

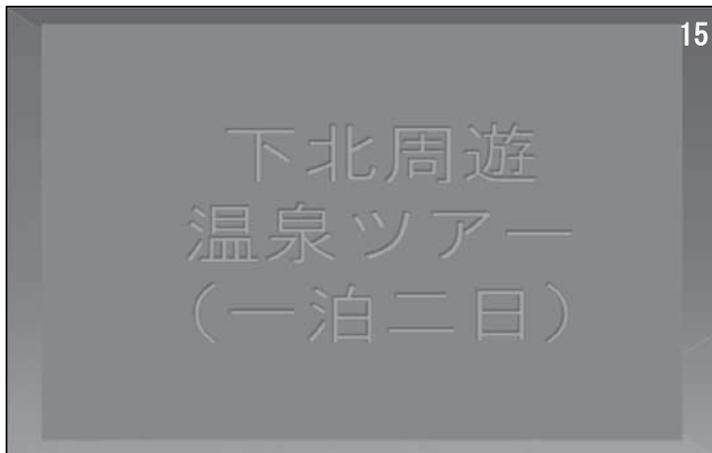
この日はシーガルビューホテルに宿泊します。このホテルは海の近くにあり、太平洋が一望できます。また、ホテル内の大浴場には昆布が入った昆布風呂なるものが存在します。昆布風呂が旅の疲れを癒してくれます。

2日目はホテルで貝焼きなどの朝食を食べ、朝から八戸を離れ十和田湖に向かいます。冬の奥入瀬溪流から十和田湖にかけての眺めは絶景です。十和田湖の冬は雪と氷に覆われ、一層神秘的な姿を見せてくれます。イベントでは郷土文化やお祭り、郷土料理を堪能することができます。また、かまくら内ではお酒も楽しむことができるそうです。冬の十和田湖を染め上げる連日の花火は圧巻です。

十和田湖を一周したら、再び八戸に戻り、アイスホッケーの試合を観戦していただきます。八戸は氷都とも呼ばれており、各種スケートが盛んです。その中でも地元八戸に本拠地のあるアイスホッケーチーム、東北フリーブレイズは大人気です。テクノルアイスパーク八戸でアイスホッケーの試合を観戦した後は、八戸の工業地帯の夜景を見に行きます。(13) (14)

新井田川の河口から出ている屋形船新井田丸に乗り込み、こたつに入りながら夜景を見て夕食を楽しみます。また、ここでも屋形船乗り場のすぐ近くに酒蔵があり、ゆっくりとお酒を楽しむことができます。この日はグランドサンピアというホテルに泊まります。

そして3日目は、八食センターというところに行きます。八食センターは八戸でも最大級の市場となっており、八戸の台所というべき施設です。ここでは新鮮な魚介類をその場で買って、七輪で焼いて食べることができます。八戸のいろいろなものが揃うので、お土産をここで買い忘れることもないかと思えます。これで2つ目のツアーは終了です。(13) (14)



3つ目のツアーは「下北周遊温泉ツアー」です。(15)

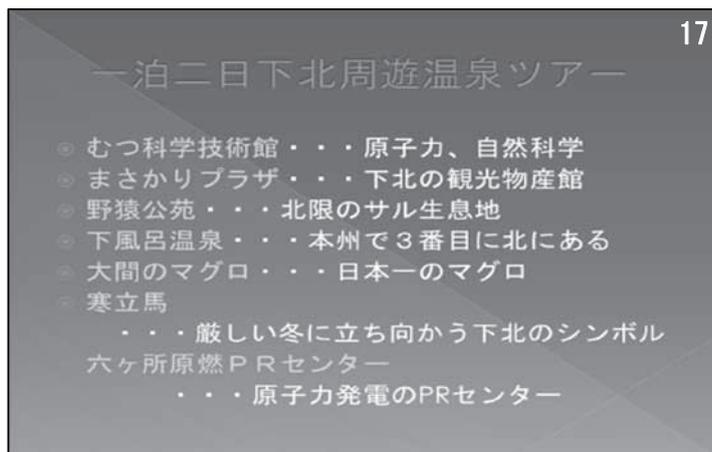
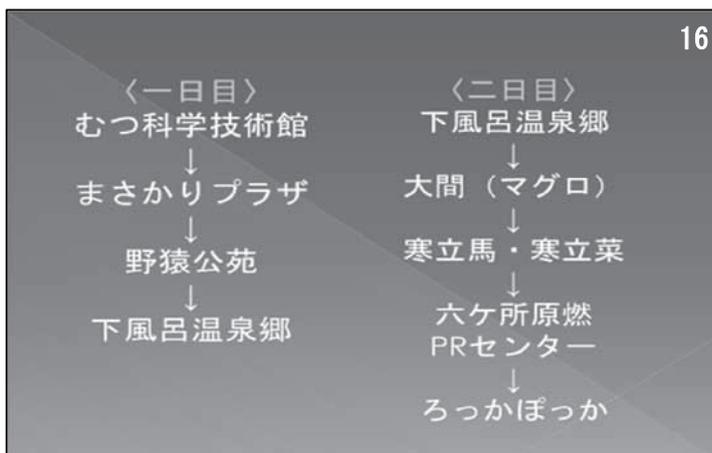
青森駅に集合し、むつ科学技術館に向かいます。むつ科学技術館は原子力船むつの開発の軌跡を記念し、科学への興味を持ってもらうために建てられたそうです。ここでは海洋研究開発機構の紹介や原子力船むつの原子炉などを展示しています。

続いてはまさかりプラザです。ここではお土産や特産品を買うことができます。玄関ホールでは樹齢 300 年の下北半島の大自然に鍛え上げられたヒバがお出迎えしてくれます。

次は野猿公苑です。この公苑には北限のニホンザル、およそ 50 頭が飼育されています。この日の夜は下風呂温泉郷に宿泊します。風間浦村にある本州最果ての温泉郷、下風呂は、室町時代の記録にも残る由緒ある湯治場だそうです。山海に挟まれた僅かな土地に温泉宿がひしめき合い、硫黄の香りが漂っています。潮騒の心地よい響きや漁船の漁火、郷愁あふれる姿は旅の気分を盛り上げてくれます。寒い中、浴衣で街中を歩くのも風情があつていいかもしれません。

2日目は本州最北端の地、大間へ行きます。何といても大間のマグロは日本一です。マグロ丼や刺身など、マグロを一心に楽しんでいただけます。

その後、尻屋崎へと向かいます。ここでは寒立馬が見られます。



寒立馬は、青森の長く厳しい冬にも耐え抜く強い生命力に満ち溢れていて、元気がもらえます。さらに尻屋崎のある東通村では、寒立馬にちなんだ寒じめハウレンソウ、寒立菜なるものがあります。寒立菜は寒く厳しい環境で育てることで肉厚になり、歯ごたえが良く、甘さが増し、生でも食べられます。

その後、六ヶ所原燃PRセンターに行きます。(16) (17)

ここではウラン濃縮工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、再処理工場などが模型、映像などで紹介されています。また施設の中を案内してもらうこともできるそうです。

施設を見学した後はろっかぽっかにいきます。2日間の疲れをしっかりと温泉で癒します。ツアーは以上になります。(16) (17)

冬の観光客を増やすために 18
(まとめ)

- ・ 有名人に県の魅力を発信してもらう。

(ピコ太郎さんや古坂大魔王さんなど・・・)

- ・ 全国紙に広告を載せる。
- ・ SNSや動画サイトなど国籍や時間を問わずに利用できる媒体での情報発信をする。
- ・ リピーターを獲得する。

さらに冬の観光客を増やすための対策として、このようなことも考えてみました。

青森県出身の有名人の方に県の魅力を発信してもらう、全国紙に広告を載せる、SNSや動画サイトなど、国籍や時間を問わずに利用できる媒体での情報発信をする、リピーターを獲得する、などです。このようにして集客できるのではないかと考えました。(18)

引用 19

- ◎ 平成28年青森県観光入込客統計
- ◎ 観光庁「宿泊旅行統計調査」

※全宿泊施設（従業員数10人未満の施設を含む）

引用元はこちらです。(19)

20

ご清聴
ありがとうございました

青森県立八戸北高等学校

青森県の活性化のためには、青森県全体が問題意識を持ち、冬の青森県の観光を活性化し、青森県を盛り上げていくために県も予算を使っていただくことだと思います。効果的な事業や宣伝を行っていくことが、今、求められていると思います。(20)

【質 疑】

えびさわ まさかつ
● 蛭沢 正勝議員（自由民主党）

（蛭沢議員）

素晴らしいご意見、誠にありがとうございました。俗に言う、るるぶ観光、遊ぶ、食べる、見る、ですね。あたかも全部体験をしたような、私どもに訴えるようなお話であったなと思っております。

それでは私からの質問としまして、雪国であるにもかかわらず冬の観光客は夏に比べて少ないとのことでしたが、具体的に青森県の冬の観光客が少ない理由について、どのように考えているのか尋ねます。

2つ目として、3つのツアーを実現するためには誰が、どのような形で実施していくことを想定しているのか、また3つのツアーはどういった人たちをターゲットにしているのか、伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

（回答）

1つ目の質問に対してお答えします。青森県は気温が低く積雪量が多いため、赴こうと思わないことと、青森県の冬の観光名所と聞かれた時に、すぐに思い浮かばないことから、冬の観光地としての知名度が低いことが理由なのではないかと考えています。

2つ目のご質問についてですが、実施方法は、考えた企画を旅行会社に売り込んで協力してもらうことを想定しています。ターゲットは、1つ目のツアーではウィンタースポーツに興味のある方、2つ目はお酒が好きな方、3つ目は温泉好きな方をターゲットに考えました。国内外の20代から50代向けのツアーとなっています。以上です。

（蛭沢議員）

私もいろんな所を見て歩きますが、最終的に良かったと思うのは、やはり食べる、飲む、また温泉に入るということだと思います。

作ったような観光施設というものは、過去に青森県にもいっぱいありました。一時、脚光を浴びたんですが、岩崎村にサンタランドという構想がありましたが、やはり理想ばかり高いものはダメなので、皆さん方が今言ったような訴えたいことをもっともっと、いろんな方に地域、地域で訴えていけばよろしいのかなと思ってしております。頑張ってください。

（鳴海議員）

統計データ等を基にして、しっかりと裏付けされた、問題意識を持った、そして魅力あるツアーの提案だったかと思います。

私であれば、2泊3日の「呑兵衛ツアー」に参加したいと思いますが、皆さんの中で、例えば問い合わせがあった時、3つの中のどのツアーを提案するか質問をしたいと思います。

（回答）

お答えします。私たちが特にお薦めなのは、3つ目の「下北周遊温泉ツアー」です。理由は、ウインタースポーツのように得意、不得意によって楽しみに差が出ることなく、誰でも楽しめるということと、冷たい空気と温かい温泉とのギャップで、幸せというか幸福感が増幅すると思ったからです。

（鳴海議員）

ありがとうございます。そっちも参加したいと思います。

3つのプランを今回提案していただきましたけれども、高校生の皆さんにとってできることというのが何かあればお知らせいただきたいと思います。

（回答）

お答えします。私たちにできることは、観光客が到着した時に、青森の特産品などを詰めたお土産をプレゼントすることです。それによってお客様に喜んでもらうのと同時に、気に入ったものを改めて購入してもらうことができると思うからです。また、手作りでパンフレットを作ってプレゼントするのもいいと思いました。

（鳴海議員）

皆さんにできることからやる、県民挙げて少しずつ青森県をPRできれば、魅力ある冬季観光の宣伝ができるかなと思っておりますので、皆さんの動きにも期待したいと思いますし、また我々、行政、議会含めて力を合わせて、みなさんの提案をぜひできればなと思っております。

1点、気になったのは、私は津軽の黒石市の出身でありまして、新青森を中心とした青森ツアー、また皆さんの地元である八戸のツアー、また下北地域の温泉ツアー。何か津軽が外れているかなというような思いがありまして、ぜひ皆さんにはあらゆる角度から、見識を広げていただいて、今は八戸北高校の生徒さんでありますので地元の魅力をどんどん吸収していただき、少し大人になったら県内、いろんなところの魅力を知っていただければ、そんな年の重ね方をさせていただければと思います。今は八戸市民としてですが、いずれは青森県民であるというような意識の下でしっかりとした活動をしていただければなと思います。我々も共に一生懸命頑張っていきたいと思います。